【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和7年6月10日(2025.6.10)

【国際公開番号】WO2025/009082
【出願番号】特願2024-570449(P2024-570449)
【国際特許分類】
C08J 5/18(2006.01)
【FI】
C08J 5/18 CES

【手続補正書】
【提出日】令和6年11月28日(2024.11.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
マトリックス相に分散相が分散されたフィルムであって、
ポリエチレンを含むマトリックス相と、ポリプロピレンを含む分散相と、を含み、
前記分散相は、少なくともＭＤ方向に配向する扁平相と樹脂で構成され、アスペクト比が３以下の球状相と、を含み、
前記扁平相の平均アスペクト比が１５以上である
フィルム。
【請求項２】
マトリックス相に分散相が分散されたフィルムであって、
ポリエチレンを含むマトリックス相と、ポリプロピレンを含む分散相と、を含み、
前記分散相は少なくともＭＤ方向に配向する扁平相を含み、前記扁平相の平均アスペクト比が１５以上であり、
吸収性物品に由来する廃棄物を原料の一部とする
フィルム。
【請求項３】
前記球状相は、ポリエチレンテレフタラート、及びポリウレタンの少なくとも一方を含む
請求項１に記載のフィルム。
【請求項４】
前記フィルムを透過型電子顕微鏡で撮像した画像における前記分散相の合計断面積に対する前記扁平相の合計断面積の比率が６０％以上である
請求項１から３のいずれか１項に記載のフィルム。
【請求項５】
前記分散相は、無機材料相を更に含む
請求項１から３のいずれか１項に記載のフィルム。
【請求項６】
前記フィルムを透過型電子顕微鏡で撮像した画像における前記フィルムの合計断面積に対するポリエチレンの合計断面積の比率が５０％以上９９％以下である
請求項１から３のいずれか１項に記載のフィルム。
【請求項７】
前記フィルムを透過型電子顕微鏡で撮像した画像における前記フィルムの合計断面積に

対するポリプロピレンの合計断面積の比率が１％以上５０％以下である
請求項１から３のいずれか１項に記載のフィルム。
【請求項８】
マトリックス相に分散相が分散されたフィルムの製造方法であって、
ポリエチレンを含み、前記マトリックス相を構成する第１原料と、前記分散相を構成する成分としてポリプロピレンを含む第２原料と、を混錬した混練物をフィルム成形し、
前記フィルム成形の際の成形温度における前記第１原料の粘度ηＡに対する前記成形温度における前記第２原料に含まれるポリプロピレンの粘度ηＢの比率ηＢ／ηＡが０．０１５以上１未満であり、
前記第２原料は、前記分散相を構成する成分として、前記第１原料よりも融点が１００℃以上高い熱可塑性樹脂、及び熱硬化性樹脂の少なくとも一方を更に含む
フィルムの製造方法。
【請求項９】
マトリックス相に分散相が分散されたフィルムの製造方法であって、
ポリエチレンを含み、前記マトリックス相を構成する第１原料と、前記分散相を構成する成分としてポリプロピレンを含む第２原料と、を混錬した混練物をフィルム成形し、
前記フィルム成形の際の成形温度における前記第１原料の粘度ηＡに対する前記成形温度における前記第２原料に含まれるポリプロピレンの粘度ηＢの比率ηＢ／ηＡが０．０１５以上１未満であり、
前記第２原料は、吸収性物品に由来する廃棄物を含む
フィルムの製造方法。
【請求項１０】
単軸押出機を用いて前記第１原料と前記第２原料とを混練する
請求項８又は９に記載のフィルムの製造方法。
【請求項１１】
インフレーション成形法によって前記混練物をフィルム成形する
請求項８又は９に記載のフィルムの製造方法。
【請求項１２】
フィルム成形後のフィルムの表面にコロナ処理を施す
請求項８又は９に記載のフィルムの製造方法。
【請求項１３】
前記成形温度が２００℃以上３００℃以下である
請求項８又は９に記載のフィルムの製造方法。